

本調査では、本研究では、富山大学五福キャンパスにおいて、調査対象者の持つ様々な恐怖の感情が、どのような場所に対して発生しているか調査し、どのような関係性を持っているのかを解明することを目的とした。調査対象者たちに地図を渡し、それに恐怖を感じる場所を記入してもらいながら学校生活やその感情を抱いた理由などをインタビューした。その結果、本調査の調査対象者たちは、①歩道と車道、車道と車道が曖昧になっている道路に危険を感じる事、②自分に被害を加える可能性のある人が集まっている場所、もしくはそれを想起させる場所に犯罪不安を抱き、③暗い場所や、自分が知らないことに対して恐怖を抱いているということが分かった。また、危険不安は元々その場所が持っている印象に上乘せされるものであり、犯罪不安と恐怖を抱かせる場所の特徴は似ていること、その差異を生む理由は犯罪被害の有無や性差によるものだということが分かった。また、場所に対する既知度が犯罪不安、恐怖を軽減させる場合があることが予想できる。本調査は危険や不安・恐怖に関する説明が不足していた上に、12人と限られた人数しか調査出来なかった為、今後はこれらの問題点を改善し、さらなる調査・考察をしていく必要がある。